

英会話構造をいつでも繰り返し学べる オンライン動画を作成し、授業中の QRコード表示で学生にアクセスを促す

読む・書く・話す・聞くという英語の4技能を総合的に高めることが目的の「英語Ⅰ（習熟度別）中級 総合英語」。担当教員の一人である篠原講師は、以前自らが作成した英会話構造の解説動画を学生に提供することで、授業時間外に学生が自主的に英語に触れる時間を生み出し、効果を上げている。オンラインで見られる解説動画の作成時の工夫、並びに動画を学生に見せるための工夫、さらには Course N@vi の活用法などを聞いた。



篠原 靖明
商学学院 講師

理工系学生向けに、英会話の構造を理解して ロジカルに話すためのオンライン動画を作成

「英語Ⅰ（習熟度別）中級 総合英語（B11・B12）」で活用している英会話構造の解説動画は、もともと篠原先生が理工学術院で「Communication Strategies2」を教えているときに作成したものだ。まずは、この動画を作成した経緯について振り返ってもらった。

「理工学術院の英語教育センターには2014年から助教で入り、2016年からは教える傍らコースコーディネーターも務めていました。理工系の学生は、3、4年になると学会に行って英語で発表する機会があります。学会できちんと話せるように、1年生のときから英語をロジカルに話す訓練をする必要があり、当センターでは、教科書も学会でのプレゼンを見据えた独自のものを作成しています」。

この理工オリジナルの教科書は、当時早稲田で教えていた増田斐那子先生が中心となって編集を開始し、篠原先生も途中段階から参加。そして、増田先生と相談する中で、英会話の構造を解説する動画を作るようになったという。動画作成及び音声録音については篠原先生が主導した。

「Online Lecture Videos」というタイトルの動画は全部で5本あり、1本は6～10分程度。特別なツールは不要で、ブラウザがあれば再生可能だ。「Unit1」の質問の仕方から「Unit5」のディベートのやり方まで、段階を追って英会話の構造を学べるように作られている。また併せてリスニング教材も作成した。

英会話構造の動画の場合、画面に表示されるのは英語の文章や図表のみで、それを英語母語話者のナレーターが解説する作りになっている。

「解説動画の内容は、教材に沿ったものですが、工夫したのはナレーションの部分です。アメリカ英語やイギリス英語だけでなく、多彩な英語に触れられるように、紹介会社を通してさまざまな国や地域のスピーカーを集めました。理由は、学生のリスニング能力を伸ばすには、多様な英語のアクセントを聞くことが有効だからです」。

2015年度に作成した動画は、理工学術院の英語教育センター

のサイトの「Communication Strategies2」(*)のページにアップして、2016年度には同じ科目を担当するすべての教員と共有していたという。

授業だけでは足りない英語に触れる時間を、 いつでも繰り返し見られる動画で補足する

篠原先生は、このオンライン動画の狙い・目的について、いつでも英語を学習できる環境を用意することだと語る。

「英語は繰り返し練習することが重要ですが、15回の授業だけで学生の英語のスキルを大きく向上させることは難しいのが現実です。オンラインで見られる解説動画があれば、授業の空き時間や通学時間など好きな時間にいつでも、何度でも学習することが可能です。もちろん、病気などで授業を欠席したときにも、オンライン解説動画を見て自習できます」。

理工学術院での授業で効果を実感できたことなどから、2017年度に商学部に移ってきてからも篠原先生はこの英会話構造の解説動画を引き続き活用している。ただし、理工学術院の「Communication Strategies2」の授業では、現在もすべての担当教員とこの動画を共有しているが、商学部内では篠原先生の担当クラスのみでの利用となっている。「英語Ⅰ」は商学部の1年生全員が必修だが、教科書や教材、授業の進め方は各教員に任されているためだ。

さて、篠原先生が担当する「総合英語Ⅰ（習熟度別）中級 総合英語（B11・B12）」は、90分の授業のうち、前半の45分で英会話の構造を学び、後半の45分はニュース教材を読んだり聞いたりして問題に答えるという構成になっている。英会話構造の動画に関連するのは前半の45分だ。

「物事を簡潔に説明する、自分の意見を論理的に説明する、相手の質問に答える、といった英会話の構造を学びながら、繰り返し会話の練習をしていきます。最終的には、クラスの中でディベートができるところまでを目標にしています」。

授業の中では、「Online Lecture Videos」の動画そのものを使うことは基本的にはない。なぜなら、授業では「インプット」より学生が自ら話す「アウトプット」のほうを重要視しているか

らだ。

「対面の授業ですぐ横に話す相手がいるわけですから、コミュニケーションを取ったほうが良いと考えています。話す機会を増やすことで、英会話のスキルは向上します」。

すでに説明したように、動画はもともと学生が自分で学ぶためのツールとして作られている。授業中ではなく、授業の前後、特に復習に使うことで、授業の理解が進み効率的に学べると篠原先生は指摘する。「また、『中級』のクラスでは、説明の6割程度は英語で行っています。英語が苦手な学生にとっては、授業でわからなかったところを動画で確認できるのも意味があると考えています」。

重要なのは「効果」だが、同じ学生のTOEICのスコアを比べると、1年次と2年次で多くの場合、スコアが上がっているという。オンライン動画も含めて、この授業の効果を示すものと言えるだろう。また授業アンケートでも、「総合的に見てこの授業は有意義であった」の点数が5.3(同科目A12、春学期評価)と高く、「もっと会話の練習をしたい」「発音を教えてくれるのがうれしい」といったコメントが目立ったそう。

Course N@vi での URL のシェア+ QR コード でオンライン動画へのアクセスをより簡単に

解説動画は、現在も英語教育センターのサイトに掲載されているが、篠原先生は授業で取り上げたユニットの動画に直接アクセスできるように、Course N@vi の「お知らせ」に URL を貼り付けているという。さらに、アドレスを QR コード化して、授業中にスクリーンに映し出している。

「今日の授業で学んだところは解説動画の Unit2 にあって、この QR コードからアクセスできますと言うと、学生はスマートフォンを使って読み込みます。もちろん、英語教育センターのサイトを検索したり、直接アドレスを入力したりしてもアクセスできますが、クリックの回数が多くなるなど手間が増えると、面倒だと感じる学生もいます。QR コードの表示は、少しでもハードルを下げるための工夫です」。なお、篠原先生の授業では、検索などのためにスマートフォンの利用を普段から許可しているという。

「総合英語」では、オンライン解説動画のアドレスをシェアする以外にも、メインの IT ツールとして、Course N@vi を日々活用している。「出席の管理やレポートの提出などに使っています。また、前半 45 分の授業の集大成となるディベートの準備では、参考となるワークシートを Course N@vi にアップしました。自分のディベート内容（原子力発電所使用維持への賛成・反対、安楽死制度への賛成・反対）に関して、意見（opinion）、理由（reason）、根拠（evidence）を述べられるよう、例として『死刑制度の賛成・反対について』まとめたものをアップロードしました。」。

学生は、Course N@vi から別途ワークシートをダウンロードし、同様に自分の意見、理由、根拠を書く。それを持ち寄って、グループ内でディベートの準備をするという。口頭での指示だけでなく、ワークシートを用意する理由については次のように語る。「グループによってモチベーションには差があって、中には次に何をすればいいかわからないというグループもあります。そんなときに、Course N@vi にワークシートが置いてあれば、この内容を埋めて次回は持って来ようという行動につながります。逆に、ワークシートがなければ、何もしないまま次の授業になってしまうこともあるので、用意しておく意味は大きいと考えています」。

今後は、授業のやり方を少しずつでも改善していきたいという篠原先生。「たとえば、現在は理工系の学生用に作ったコンテンツをそのまま使っていますが、内容をもう少し商学部向けにするなど、いろいろなやり方が考えられると思っています。ただ、どのようなやり方をするにしろ、独りよがりにならないように授業アンケートなどを見て、学生の意見も取り入れながらよりよい方向に進化させていきたいですね」。

(*) 早稲田大学 理工学術院 英語教育センター
1st Year Courses>>CS2>>Information>>Materials -
Online Lecture Videos
Unit1~Unit5
<http://www.celese.sci.waseda.ac.jp/year1/cs2>